RIPPLE SAILING CLUB
NO.150

月刊１９９５．１０．１７
RIPPLE

（発行）
リプル・セイリングクラブ
〒238－03
神奈川県横須賀市長井２－１１－１
TEL　0468－57－1711

新天地保田漁港情報

まったくの新しい港、特に漁港に入港するというのは、どんな所なのかと色々考えるて胸が高鳴る反面、係留は出来るのだろうか、どんな待遇をされるのだろうかと不安の方が多いのが現実である。

現に、大きな港は別として、小さな漁港に入港した時なんかは、決ってうさん臭そうな何か一言ぐらいは覚悟をして入港するものなのである。

それは、漁港に立ち寄った時に、先人達がゴミを投棄していったり、勝手に水道なり、無断でトイレを使用してきたつけが今来ているのであるから仕方が無いと言えば仕方が無いのである。

でもそれは最初の上陸の対処の仕方でハッピーセイリングに変わることが多いのであるが。

そんな複雑な思いを抱いたクルー９名は、日本全国移動性の高気圧に覆われた東京湾を南下して行ったのである。

この日、ＲＩＰＰＬＥ号にとって全く新しい漁港”保田”を目指していたのである。

北の風２０ノット前後の風の中フルメン、フルジブで進んでいるのであるが、ＲＩＰＰＬＥ号にとって信じられない７．０～８．幾つの数字がＧＰＳに映し出されて、デッキ上は喚起に包まれながらである。

順調なセイリングのため保田には３時間後の正午近くに入港できたのである。

先ずは係留出来る所をと探し、既にプレジャーボートが２隻係留している所を見つけ、同じ並びにバウ付けの準備をしていた時である。

岸壁から大声で怒鳴っているオジさんがいるではないか。

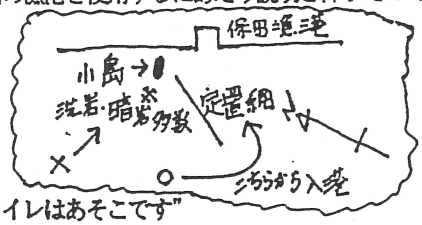
”そこはだめだよーっ！！”．”こっちに留めろ！”

どうやら留められるようであるが、心の中で　”ほら来た。”と叫んだものでした。

そのおじさんの指定された岸壁に今度は横付けで係留しようとすると、なんと、にこにこと笑みを浮かべ、係船ロープを取ってくれるではないか。

”おっと。これはどうも！”．という感じで上陸をしたのである。

先ずは挨拶から始まり、保田の漁港を使用するにあたり説明を仰うたのであるが。



”係留場所はこの桟橋”
”１時間、１，０００円”
”２時間、２，０００円”
”１泊、３，０００円”
”そして水道はあそこで、トイレはあそこです”

まー、この辺まではうむ、うむと聞いていたのであるが、事情が一変するのである。

”でもって、漁協経営のレストランが有るので、出来たらそこで飯を食ってくれないか”と、半強制的にお願いをされてしまったのである。

断わる理由も無いし、セイリングの時は地の物をというＲＩＰＰＬＥ号の精神に従いお願いをしたのである。

が、そこからは藤子さんの”笑うせえるすまん”に出て来る様なモグロおじさんのペースにすっかりはまってしまうのである。

”鯛のお刺身が１匹２，０００円でこれだけの人数がいると３－４匹だな”

”伊勢海老が１匹１，８００円で９匹かい”

とか色々と高級魚がモグロおじさんの口から出て来るのである。

やっとの思いで鯛２匹、伊勢海老５匹にしてもらい、リプルのクラブハウスの様なレストランに行ったのである。

上半身裸でも寒くない晴天なので、外の大きなテーブルに付いて先ずはビールをと、呑みながら待っていると、モグロおじさんはささえのいっぱい入った袋を持ってきて、”２個５００円美味しいよ！”とか、店の中に有ったメニューのボードを持って来て、”今日のお奨めはこれと、これとこれ”とか言って来るのである。

そこでもおじさんに押し切られ何品かお願いしたのである。

で、料理されて出てきた刺身にしろ、揚げ物にしろ漁協直営の店にしてはお世辞にも誉められる物では無かったのである。

鯛はハナダイ（うむ、確かに真鯛とは言っていなかった）、イナダはこれ大丈夫という生きの悪さ、油でびちょびちょの揚げ物、伊勢海老に関してはボイルしてあるし、鉄人が見たらテーブルをひっくり返してしまうような物なのである。

でも、これサービスといって出してくれたサラダ、鯛の残り物での潮汁、最後に飯もサービスしちゃう、といって出してくれた飯の旨いこと、注文の物よりサービスで出してくれた物の方が段ちで旨かったのには閉口してしまうのである。

実はこの保田漁港、漁港が整備されたのは昨年の６月、この様なクラブハウスを造り、この様なサービスを始めたのが今年の７月２０日かの事。昨年の整備を機会に積極的にプレジャーボートを迎え入れようとしないかとの漁協の大方針転換なのである。

この様な先輩としてこの近くでは、昨年から始めている三崎漁港が有ります。ここはプレジャーボート専用の岸壁をゾーニングして漁船とプレジャーボートとの共存をトライアル的に始め、有る程度の成功？（事業的ではなく）をしたのである。

それを受けてか知らないが、とにかく保田漁港は新しい方向性をもって進みだしたのである。

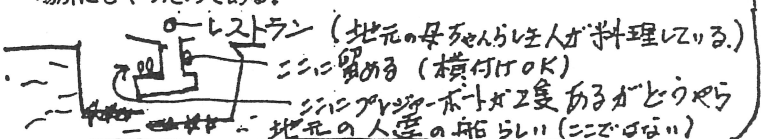
保田の漁民の間に芽生えたプレジャーボートに対する考え方の違いに、我々は評価すべきだと思います。

何かと気を使いながら係留するのと、お互いに割り切って堂々と係留するのではえらい違いである。

そしてこの試みがやがては成功し、岸壁に書かれた”ボート、ヨット係留禁止”の看板が今年一つ、来年また一つと外れていくことを願って止まないのである。

ただ、我々を金を落とす奴らだという意識が強くならないようにだけは願いたいものである。

そして、十分にお腹を満たした後ＲＩＰＰＬＥ号は真上りの東京湾をバウスプレーを浴びながら北上し、薄暗くなりかける１７時近くにいつもの場所にもやったのである。



ファーラーの展開に注意

先日のクルージングの時、ジェノアを巻取るときに巻取れないというアクシデントがありました。

その後色々と点検したのですが、不良ヶ所が見あたりませんでした。

恐らく次のような理由でアクシデントが発生したものと思われますので次の機会には注意して下さい。

その日は大変風速があり、ジェノアを展開する時に、ファーラーのシートにテンションを掛けずに展開したために、急速に開いてしまい、ドラムにシートがゆるゆるで巻き込み、今度巻取る時にテンションを掛けたシートがゆるゆるのシートのコイルに食い込んでしまって、回転がスムーズにいかなかったのではと思われます。

以前ワイヤーの物でした時には頻繁に起こっていたアクシデントです。

以後ご注意を。